

令和3年度 県立芦屋高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 学校経営のテーマ

「芦屋高校で自分探し～自ら学び自ら考える力を育てる探求型学習への転換～」

○めざす「芦高」像

教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」

論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

2 本年度の重点目標

第3期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。

(1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実

- ア 自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育成する。
- イ 勤労や職業に対する考え方を育むとともに、個に応じた支援の充実に努める。

(2) 「外国人生徒にかかわる特別枠選抜」の入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。

- ア 特別枠で入学した生徒に、取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する。
- イ 姉妹校提携した学校との交流、海外語学研修、留学生の受入れを通して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の伸張を図る。

(3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実

- ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。
- イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する能力を育成する。
- ウ 問題解決的学習や体験学習を積極的に取り入れ、学習した内容を活用する力の育成に努める。

(4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上

- ア 生徒の多様なニーズに対応するため、教育内容や教材の精選、指導方法の工夫に努めるとともに相互に研修する機会を設け、「教育の専門家」としての資質・能力の向上に努める。
- イ 教職員が互いに努力を認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努める。

(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進

- ア 学校の教育方針や教育内容について保護者や地域住民等への理解を図るとともに、学校への要望などにも留意し、地域に信頼される学校づくりを進める。
- イ 地域住民と連携し、「高校生ふるさと貢献活動事業」の積極的実施を通じて、開かれた学校づくりを推進する。
- ウ 地域及び関係機関等と連携して、震災後の取組を発展させた防災教育の充実に努める。

(6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成

- ア 生徒一人一人に社会生活のルールや基本的なモラルを守る倫理観の育成を図るとともに、自己責任の自覚、自立心の涵養に努める。
- イ 命の大切さを基盤とし、学校内外の活動や体験を通して、やさしさや寛容の精神を育み、共に助け合って生きる心の教育を進める。
- ウ 生徒の心のケアに対応する校内の教育相談体制の整備に努める。

3 総合的な自己評価

- (1) キャリア教育について、今年度「総合的な探究の時間」の在り方を検討し、ガイダンス課を中心に取組んだことにより、進路決定に役立っていると実感している生徒が昨年度より微増した。キャリアプランニング能力の育成を図るために、今後もキャリアノートの活用を含めた発展的な取組みを検討していくとともに、3年間をとおして継続的なキャリア形成につなげていく必要がある。
- (2) 外国人生徒の支援については、外国人特別枠生徒受け入れ5年目として教職員間での共通理解を図り、支援体制の確立に繋げてきた。進路実現に向けての早期からの対応により、3年次生徒の進路実現を図った。多言語におけるカウンセリングの対応や、他校、関係機関との更なる連携が必要とされる。国際交流については、姉妹校との交流や海外語学研修、講演会等の取組みを通して異文化交流を促進できた。
- (3) 学力向上については、3年次の補習体制の充実し、1、2年次での学習環境の確立に取組むことにより、勉強が大切だと実感している生徒の割合が増えた。新学習指導要領への移行、大学入学共通テストへの対応に向けて、新しい時代が必要となる資質・能力の育成を図るため、「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善など、教職員のさらなる資質向上が求められる。また、読書離れの実態を改善していくために、今年度の「芦高タイム」などでの図書館活用を充実・発展させながら、図書館の学習センターとしての機能充実と活用を検討していく必要がある。
- (4) 地域との連携については、「高校生ふるさと貢献・活性化事業」などを活用した様々な活動や、地域を巻き込んだ積極的な防災教育の取組みにより、地域の高等学校として“芦高”への期待を高めることができた。生徒アンケートでの「地域活動やボランティア活動に参加したことがある。」と答えた生徒の割合も昨年度よりも増加している。
- (5) 心の教育については、「教育相談体制」の認識が、保護者、生徒ともに昨年度より高くなっている。今後も教職員の生徒理解及び学校教育全体をとおした教育相談体制の充実と周知が求められる。

4 学校関係者評価総括

多様化、複雑化する社会的課題の解決の基盤になる「知」に生徒が触れることは、健全な社会の担い手としての成長、進路の選択にとって極めて有益なこと。AUSSや高大接続の機会を活用しつつ、専門的な「知」や実践に「参加」することも考えられる。生徒の「当事者意識」の育成についても、単に学校生活を送るための「自治力」ということだけでなく、次年度に向けた重点的な改善点にある社会連携の充実において、生徒が主体となった「連携」、積極的な「提案」「参加」へと誘うためにも重要。「外国人生徒」である「特別枠選抜」の生徒に限らず、今後、小中学校を含めて、日本語が母国語でない家庭の子ども達の教育が大きな課題となってくる。「リード芦屋新聞」に記載された生徒さんの記事、素晴らしい。手を入れたりして手もかかるが、学生自身の自信になる。

「学校生活が楽しい」という問いに対し、教員、保護者、生徒の3者とも昨年度よりも高く肯定的な回答をしている。コロナ禍の中、教育活動にも制限があり、学校行事や部活動にも変更や縮小が伴い、「学校が面白くない」という考え方が増えてもおかしくない。そのような中、3者とも肯定的な意見が高くなるということは、生徒の学校生活が充実している証拠だと感じる。そのためには、当然ながら先生方の工夫やご苦労があるのだろうと拝察する。本当に素晴らしい。

気になったことは、「通学服を正しく着用しているか」という問い。生徒と保護者は3.6ポイント程度で揃っている中、教員の回答は2.2ポイントと低く、また全ての質問項目の中でも一番乖離している点が気になる。どのような取り組みが生徒の学校生活を満足させているとお考えなのか、また制服に対しての意見の乖離はどのように捉えているのか。

学校評価の殆どが高い評価(A.B)で安心した。昨年比も上昇している項目が多く、今後の発展が期待できる。ご尽力ありがとうございました。

今回資料を拝見して初めてこのような多様な活動が行われていることを知った。コロナ禍においても少しでも実践を積み重ねるべく活動されていることに心より敬意を表す。芦屋高校には通常の授業以外に、進路指導や地域活動があるということに、「羨ましい」という感想をもつ。地域活動で大事なことは「何をするか」ではなく、「なぜ、必要なのか」の理解だ。前提として、「この学校が好きだ」は「この地域が好きだ」につながると考える。

5 次年度に向けた重点的な改善点

高大接続改革、新学習指導要領実施に向けた教育課程の見直し、単位制の特色を生かしながら、生徒の主体的な考察・活動を促す授業づくりをさらに進めていくとともに、地域社会に貢献する活動や防災・減災教育への取組みなど、自治会が主体となって、地域を巻き込んだ芦屋高校の魅力が発信できる体験活動を充実させ、その成果をしっかりと広報していくことが重要である。

6 重点目標別自己評価結果

★印は今年度新規項目 評価の[]内は昨年度評価

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
[] 内は昨年度の評価 [※] は昨年度は別の目標 「-」 は評価できず				
<p>(1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実</p>	<p>①最新の入試制度に向け、思考力・判断力・論理表現力などを備えて多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるために授業を工夫し、コロナ禍でも取り組めるアクティブラーニングを主体的に導入していく。【1年】</p>	<p>①定期的に面談や進路 LHR を実施し、模試分析の資料等を使って生徒個人の進路実現に向けての意識づけ、到達度を確認し、評価に資する。【1年】</p>	<p>B [B]</p>	<p>①新しい入試制度に向け、各教科で多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるための工夫した授業を行ったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、アクティブラーニングを主体的に取り入れることが困難であった。今後はポストコロナ（ウィズコロナ）での授業研究や改善を図る必要がある。【1年】</p>
	<p>②新しい入試制度に対応するため、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけさせるために授業を工夫し、アクティブラーニングを積極的に導入していく。【2年】</p>	<p>②定期的に面談や進路 LHR を実施し、模試分析の資料等を使って生徒個人の進路実現に向けての意識づけ、到達度を確認し、評価に資する。【2年】</p>	<p>B [B]</p>	<p>②LHRや放課後の時間を使って二者面談を行い、進路について深く考える時間を作ることができた。模試の問題や結果資料を活用し、振り返りを行うことによって自分の課題を見つけ出し、3年次に向けて何をしなければならぬか確認した。また授業については「深い学び」に繋げる授業をと試みたが、コロナの影響で対話的な授業を作ることが難しかった。引き続き工夫をしていく必要がある。【2年】</p>
	<p>③進路分析を行い、個人面談を充実させて個々に合わせた指導を心がけていく。月1回は、年次集会を開き、進路についての事や受験期でのアドバイスなど年次全体で受験に向かって頑張る雰囲気を作っていく。【3年】</p>	<p>③卒業時の進路に関するアンケートを実施し評価に資する。【3年】</p>	<p>B [B]</p>	<p>③LHRの時間を利用し、進路実現に向けて2者面談を積極的に行った。色々な情報提供や自らの将来・生き方についても話すことができた。年次集会も積極的に行い、伝えていった。ただコロナの影響で回数が減ってしまった事が残念であった。【3年】</p>
	<p>④日本学生支援機構給付奨学金の選考に関する手続き、基準等を周知し、進学意欲の向上とともに社会に対する責任感を自覚させる。【総務】</p>	<p>④選考基準や選考過程に対する学校内外からの意見を評価に資する。【総務】</p>	<p>A [A]</p>	<p>④年次と連携して内容の周知に努めたが、一部で保護者への周知が十分でない場合もあった。保護者からの質問には丁寧に対応し、手続きを円滑に進めることができた。【総務】</p>
	<p>⑤生徒が自己実現を目指す過程において、必要性に気づくことにより社会性や規範意識を自発的に身に付けられるようにする。【生徒】</p>	<p>⑤日々の生徒の取り組みの様子や表情より、生徒の成長や変化を逃さず確認する。年度末のアンケートも利用し変化を確認する。【生徒】</p>	<p>B [※]</p>	<p>⑤TPOに応じた言動を意識させるために、生活指導は画一化しすぎずに、できるだけ個別で対応することを心掛けた。その結果、周囲に配慮できる生徒は増えたと思われる。ただしより多様化が進むために、どこまで許容できるものなのか、教員間の共通理解を深める必要がある。【生徒】</p>
	<p>⑥読書センターとしての図書館機能の充実【図書】</p>	<p>⑥図書の計画的購入・収集・廃棄が行われているか。 ・「図書館ニュース」発行など読書啓発活動を行っているか。 ・読書感想文コンクールなどに積極的に参加しているか。 ・図書委員会を中心とした図書サービスが日常的に運営されているか。【図書】</p>	<p>A [※]</p>	<p>⑥ 購入・収集については教育振興会拠出金(年間50万円)をもって計画的に行い廃棄は図書委員会を中心に実務を行わせ、岩波文庫本(旧版)約500冊を処理した。ニュースは第1号のみ刊行。コンクールは1年全員、2年若干名が応募。図書委員会による昼と放課後のレファレンスサービスは遅滞なく概ね行われているものの、利用者が少ないのが惜まれる。【図書】</p>
	<p>⑦進路別説明会を活用して、生徒の進路意識の向上に努める。【進路】</p>	<p>⑦進路別説明会、AUSS インターンシップの実践内容及び満足度に関するアンケートより評価する。【進路】</p>	<p>- [B]</p>	<p>⑦6月の3年次、1, 2月の1, 2年次の進路別説明会が全て新型コロナ蔓延時期と重なり、実施できなかった。AUSSインターンシップは今年度1年次に就職希望者が不在のため未実施であった。【進路】</p>
	<p>⑧高大接続に対応した進路の取り組みを、各教科・年次と連携して準備する。【進路】</p>	<p>⑧年度末に総括を行い年次からの意見をまとめて評価する。【進路】</p>	<p>B [B]</p>	<p>⑧昨年度新たに実施された「共通テスト」に関する分析と傾向を職員研修会で研修した。また模擬試験から推測される課題などを職員研修会で共有するとともに、3年次の年次会議には全て出席し、情報共有・連携に努めた。【進路】</p>
	<p>⑨「総合的な探究の時間」をとおして学問や社会への関心を高め、探究的な活動の充実を図る。【ガイダンス】</p>	<p>⑨生徒のレポートや振り返りシート等を参考に、年次末に総括を行い、評価に資する。【ガイダンス】</p>	<p>B [B]</p>	<p>⑨ビブリオバトルや学問別発表会にむけて生徒の意欲的な取り組みが認められた。また「課題研究」においては地域とのつながりや体験活動への取り組みを新たに行い、成果を感じる一方、まだ課題も多い。【ガイダンス】</p>
	<p>⑩各年次・教務課・進路課と連携し、生徒一人ひとりの興味関心と進路希望に応じた履修計画の作成を指導する。【ガイダンス】</p>	<p>⑩ガイダンスブックの活用状況や履修科目登録状況を振り返り、評価に資する。【ガイダンス】</p>	<p>B [B]</p>	<p>⑩年次や関係する課と連携しながら、科目登録への意識づけをある程度果たせた。予備登録までにしっかりと意識付けを今後とも行っていく。【ガイダンス】</p>
	<p>⑪専門家や社会人、大学生の講演等をとおして、自らの高校生活のあり方や将来の生き方を展望させる。【ガイダンス】</p>	<p>⑪「仕事ナビ」や「進路ナビ」などの行事实施後の生徒の感想などを評価に資する。【ガイダンス】</p>	<p>B [B]</p>	<p>⑪社会が抱える課題が複雑化するなか、課題解決に必要な総合的な〈知〉に、生徒がふれる機会を今後一層充実させる必要がある。【ガイダンス】</p>

<p>(2)外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。</p>	<p>①外国人特別枠入試で入学した生徒に、取り出し授業・日本語教育等の学習支援を行って教科学習の理解を進め、進路実現を支援する。【国際教育】</p> <p>②姉妹校や海外の学校との交流、その他の学校行事を通して異文化理解を促進する。【国際教育】</p>	<p>①当該生徒や保護者からの聞き取り内容、各教科の試験の到達度や日本語能力試験の結果などを評価に資する。【国際教育】</p> <p>②姉妹校や海外の学校との交流の様子、国際理解教育の学校行事でのアンケート結果を評価に資する。【国際教育】</p> <p>③多様な文化背景を持つ生徒のニーズに合った図書購入が行われ、啓発が行われたか。【図書】</p>	<p>B [B]</p> <p>B [A]</p> <p>B [※]</p>	<p>①生徒もよく取り組み、取り出し授業や日本語教育で成果があった。母語の教科書や語学検定試験の過去問も購入して、利用できるようにした。1年次生の支援が中心となっているが、2年次以降も学習・進路の支援やカウンセリングが必要なときもあり、きめ細かな対応が求められる。【国際教育】</p> <p>②台湾の三重高中との交流や海外語学研修は実施できなかった。国内でイングリッシュキャンプを実施し、参加生徒は主体的に学習した。韓国語の授業で外部から講師を招き、韓国文化を学んだ。海外渡航の制限が続く中、多くの生徒が国際的な事柄に関心を抱くことが課題である。【国際教育】</p> <p>③詩・歌集など、比較的字数が少なくイメージ力があり、個人では入手しにくいものと、図鑑・事典・辞典のたぐいを更新購入した。岩波文庫・新書の購入（無選択）は今後も継続していくが中公新書については選択に転換した。LGBT、不登校等のジャンルやSDGsなどについての書籍も揃えた。ただ、啓発はほとんど行えなかった。【図書】</p>
<p>(3)基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実</p>	<p>①自らの長所を伸ばし活かしていく。前段階として、授業、週末課題や小テストなどの地道な取り組みや、清掃活動や学校行事における役割など、全ての取り組みに全力を尽くすことができるチームを目指す。【1年】</p> <p>②自らの長所をさらに伸ばし活かしていくために、毎日の授業や小テストなどの地道かつ基礎的な取り組みや、学校行事やHR活動における役割など全ての取り組みで全力を尽くすことができる集団を目指す。【2年】</p> <p>③補習や個別課題など、進路実現のために個々に応じた指導を行っていく。【3年】</p> <p>④新学習指導要領に対応した教育課程の編成を行い、観点別評価について、準備を進める。【教務】</p> <p>⑤公開授業・研究授業による授業力の向上を図る。【教務】</p> <p>⑥教育用クラウド等、ICTを活用した学習指導の支援を行う。【広報・情報】</p> <p>⑦当事者意識を持ち、主体的に学校生活を送るために必要な「自治力」を養うことができる文化をつくる。【生徒】</p> <p>⑧学習センターとしての図書館機能の充実【図書】</p>	<p>①日々の生徒との対話を大切にし、生徒の成長や変化を確認して身についた学力や意欲・関心を総括し、評価に資する。【1年】</p> <p>②日々の生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒の成長や変化を確認して身についた学力や意欲・関心を総括し、評価に資する。【2年】</p> <p>③面談や日々の生徒とのコミュニケーションをとる中で、生徒のニーズに応じて適切な課題提供ができていくか確認していく。【3年】</p> <p>④教職員の共通認識の醸成ができていくか、教員アンケートなどにより、状況を確認し、その結果を評価に資する。【教務】</p> <p>⑤公開授業・研究授業および事後検討会の実施回数などを評価に資する。【教務】</p> <p>⑥年度末に教員・生徒にアンケートを実施し、その結果を評価に資する。【広報・情報】</p> <p>⑦生徒とのコミュニケーションを取ることで、常に確認するまた、年度末のアンケートにて確認する。【生徒】</p> <p>⑧生徒作品集『あしたづ』の発行がなされているか。「調べ学習」に対して、助言・アクセスが十分なされたか。図書館利用計画など、「言語活動の充実」（学習指導要領）に即した支援・援助が行えているか。【図書】</p>	<p>B [B]</p> <p>A [※]</p> <p>A [A]</p> <p>B [B]</p> <p>B [B]</p> <p>B [A]</p> <p>B [※]</p> <p>A [A]</p>	<p>①年度当初に年次の目標として、「挨拶・掃除・感謝」を設定した。その実践に向け、美化清掃活動や行事など何事にも熱心に取り組む生徒が多く見られた。学習における取り組みについては、できる生徒としない生徒、及びできない生徒に分かれる傾向にあった。特に、部活動に加入している生徒は、部活と勉強の両立を定着させるのに苦労している姿が見受けられた。次年度に向けて、主体的に取り組めるよう年次集会での指導や担任からの声掛けを行っていく。【1年】</p> <p>②LHRや放課後等の時間を使って二者面談を行い、授業での取り組みや学習についての悩みがないか聞くようにした。しかし、先生方も生徒たちも放課後は会議や部活動で忙しく、多くの時間を費やすことが難しかった。年間を通して計画的に実施する必要がある。【2年】</p> <p>③模試の振り返りを丁寧に行い、ベネッセのデジタルサービスを利用し、弱点克服や得意科目を伸ばすことを分析した。個別の質問や相談しやすい環境作りを整えていき、学習や進路実現のニーズに対応する事ができた。生徒個々に応じた声かけを実践することで生徒に寄り添ったサポートに徹することができた。【3年】</p> <p>④教育課程・観点別評価について、準備の遅れがあり、議論など十分でない部分がある。今後、実施をしていく中で、評価方法などを改善していく必要がある。【教務】</p> <p>⑤公開授業・研究授業の実施を行うことができたが、参加人数などが十分ではなかった。忙しい中ではあるが、より多くの先生方が参加できるようにする必要がある。【教務】</p> <p>⑥学校評価アンケートでは、教員の約7割が授業でICTを活用したと回答しているが、来年度からのBYOD導入を視野に入れるとさらに活用を推進する必要がある。保護者・生徒についてはアンケート項目が変更になったため、評価のためのデータを得られなくなった。【広報・情報】</p> <p>⑦「自治」の原動力である「自治会執行部」は自発的かつ意欲的に取り組むことができている。また教員も自治会の意志を尊重しながらも適切にサポートできていると思われる。いかに全生徒に活動を広げ、組織として動いていけるかが今後の課題である。【生徒】</p> <p>⑧「あしたづ」は今年も発行した。調べ学習そのものの利用頻度に対し、図書館利用がなされているのかが不明である。図書館利用計画は昨年作成されたものの、実利用者が少ないため支援・援助が十分なされたとは言えない。【図書】</p>

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上</p>	<p>① 学校行事の立案に際し、状況の変化に対応しながら、各課・年次との連携を深め、意見を集約・反映した計画を作成していく。【総務】</p> <p>② 校務支援システム・成績処理の安定的な運用を図る。【教務】</p> <p>③ 「学びのイノベーション推進事業」に基づいた校内のICT環境の整備を行う。【広報情報】</p>	<p>① 行事計画の妥当性については、各行事の実施状況に対する意見を集約し、評価に資する。【総務】</p> <p>② 成績処理・出欠処理などについて、正確かつ効率的な運用ができているか、アンケートを実施し、その結果を評価に資する。【教務】</p> <p>③ 年度末の時点で、整備状況の確認を行い、その結果を評価に資する。【広報情報】</p> <p>④ 教員推薦図書を購入・配架を行っているか。【図書】</p>	<p>B [B]</p> <p>A [A]</p> <p>B [C]</p> <p>A [※]</p>	<p>① コロナ禍により昨年度に引き続き行事予定については再三の変更を余儀なくされる結果となった。各課・年次の意見を反映しつつ、状況の変化に迅速に対応し全体に変更を周知できるようにさらなる工夫が必要と感じさせられた。【総務】</p> <p>② 校務支援システムの運用については、今までの蓄積を活かすことができた。コンピュータ上での処理については、よりミスのない運用が求められる。そのために必要な啓発などが必要である。【教務】</p> <p>③ 県教委の追加整備、学校独自の整備により、ある程度環境を整えることはできた。しかし、公道を挟む体育館方向へのネットワークが整備しておらず、災害時に体育館が避難所になったとしても災害時無料Wi-Fi 00000JAPANが使用できない状態のまま取り残されている。【広報情報】</p> <p>④ 職員室教員デスクから推薦図書の入力が可能だが、0であった。ガイダンス課からの希望図書は全冊購入。芦高α（ビブリオバトル）のチャンプ本は複本購入。生徒リクエストに基づく『ターザン』『ナンバー』、及び『世界』『文藝春秋』も定期購入している。【図書】</p>
<p>(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進</p>	<p>① 防災訓練を通じて、生徒一人一人の防災意識、自主性、判断能力の育成を図る。また地域との連携を深め、協力関係を継続していく。【総務】</p> <p>② コロナ対策の状況下において、学校ホームページ等の可能な方法を駆使して情報発信を行う。【広報情報】</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりつつ、可能な手法を駆使して中学生および保護者、中学校教員に対して広報活動を行う。【広報情報】</p>	<p>① 防災訓練時の生徒の行動、生徒の自治的活動状況を分析し、地域からの意見も参考にして評価に資する。【総務】</p> <p>② 校内および校外アンケートを実施し、その結果を評価に資する。【広報情報】</p> <p>③ 実施することができた広報活動の数、および志願者数の増減結果を評価に資する。【広報情報】</p>	<p>A [A]</p> <p>B [※]</p> <p>A [B]</p>	<p>① コロナ禍の影響もある中で限定的であったが、水平移動を伴う避難訓練を宮川町住民も参加していただき、車いすでの移動実験も含めて実施することができた。訓練を通して生徒が防災リーダーの存在を意識して、主体的に判断し行動することの重要性を認識する機会となった。【総務】</p> <p>② 学校評価アンケートによると、学校HP、メールメイト、書面も含めた学校からの情報提供が十分であると回答した保護者は85%に及ぶものの学校HPを学校生活の様子を見ることに活用していると回答した保護者は60%に留まる。緊急性のある情報伝達以外にも、日常的な学校生活についての情報提供が求められている。【広報情報】</p> <p>③ 8月の学校説明会の中止や、10月のオープンハイスクールの保護者参加の取りやめなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、オンラインによる説明会の実施や、芦屋市立中学校限定の説明会の開催など、可能な方法を駆使しての広報活動を行うことができた。【広報情報】</p>

(6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成	①他年次と調整の上、積極的に年次集会を実施し、対話の大切さを伝え、代議委員やHR委員が中心となってクラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決する力をはぐくんていく。【1年】	①代議委員会を開き、意見交換と相互評価を行い、その結果を評価に資する。【1年】	B [B]	① 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、年次主催の行事や代議委員会の積極的な実施ができなかった。次年度も同様な状況が想定されるのでクラスごとに担任が対話・相談しながら課題を見つけ、代議委員やHR委員が中心となって、クラスで解決し団結していく方法を考究していく。【1年】
	②コロナ禍で年次集会を実施するのは難しいことではあるが、感染防止対策をとる中で可能な限り集会を実施し、コミュニケーションの大切さを伝え、代議委員が中心となって、クラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決する力を育んでいく。【2年】	②代議委員会を開き、意見交換と相互評価を行い、その結果を評価に資する。【2年】	B [B]	②コロナ禍ではあるが、感染防止対策をとり年次集会を数回開くことができた。78期の目標や学習面・生徒指導面など年次で共有しなければならない事を確認し年次全体で情報共有する事ができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で北海道修学旅行、関東方面修学旅行が中止となったが、代議委員や修学旅行委員を中心に、次の修学旅行に向けて生徒たちが主体的に取り組んだことでクラスが一層団結できたと感じる。今後も生徒たちとコミュニケーションを図り、進路実現に向けて引き続き取り組んでいきたい。【2年】
	③積極的に年次集会を実施し、進路実現に向けてのアドバイス、コミュニケーションの大切さを伝えていく。様々な進路に向かう者同士でお互いに認め合い、高め合う環境を作る。【3年】	③生徒・保護者と連絡を密に取っていき、生徒の状況を把握し、情報共有や分析をしていく。【3年】	A [B]	③受験を通して年次で協力して苦しい状況を乗り越えていこうと伝え続けた。最後まで諦めない姿勢と早めに進路が決定した生徒は、まだ進路が決まっていない生徒に対して思い遣りのある行動・気遣い、進路に向けての勉強をやめない事を伝えた。「顔晴77」を合言葉に笑顔でがんばることを伝えてきた保護者とも密に連絡を取り、生徒に合った進路実現にむけての情報交換を行うことができた。【3年】
	④清掃美化活動を通じて、生徒一人一人の自主性、責任感、公共心の育成を図る。【総務】	④美化状況、生徒の活動参加状況に対する意見を総括し、評価に資する。【総務】	B [B]	④日常の清掃活動を通して生徒の意識は高まっていると思われるが、実際の美化内容についてはいろいろな改善の余地があり、引き続き検討が必要である。【総務】
	⑤カウンセリング環境の整備【保健】	⑤カウンセリングの実施回数とコンサルテーションの内容の充実度を分析し、評価に資する。【保健】	A [A]	⑤カウンセリングの実施回数は昨年度とほぼ変わらず、生徒や保護者とのつながりを継続できた。また、学級担任等を交え、内容的にも充実したコンサルテーションが実施できた。【保健】
	⑥救急救命法の啓発【保健】	⑥実施回数や内容を分析する。【保健】	C [B]	⑥新型コロナウイルスの感染拡大に伴い遅れていた部活動のマネージャーを対象とした救急講習会をこの3月に予定していたが、現在実施が困難な状況である。【保健】